

# 人間健康学群カリキュラムマップ(2022年度入学生用)

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号									
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
人間健康学群 ディプロマポリ シー	1. 知識・理解	①社会的健康に関わる福祉や政策、地域連携の取り組みについて理解している。 ②精神的健康に関わる心理学の考え方について理解している。 ③身体的健康に関わる食べ物と栄養の考え方について理解している。											
	2. 汎用的能力	④健康の維持・増進をマネジメントする上で、人の連携を図るコミュニケーション力を身につけている。 ⑤情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題解決にあたることができる。											
	3. 態度・志向性	⑥建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。 ⑦自己のキャリア形成の実現のため、生涯にわたって学び続ける力を身につけている。											
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑧健康管理に関わる課題を身体的健康・精神的健康・社会的健康の側面から総合的に考え、社会に貢献できる力を身につけている。											
基礎ゼミⅠ	大学生として主体的に自ら考え、学ぶ能力を身につける。	1. 大学で学ぶための基本的な力を身につける 2. グループワークを通じて豊かな人間関係を形成する 3. 卒業後の進路について考えることができる	20 40 40				◎					◎	
基礎ゼミⅡ	健康科学・社会学・教育学等に関わるテーマについて情報分析力、コミュニケーション力を養う。	1. 大学で学ぶための基本的な力を身につける 2. 情報を収集し、分析する力を身につける 3. グループワークを通じてコミュニケーション力を養う	30 40 30				◎		◎				
健康管理論	健康とは何か、健康に影響する要因を理解し、疾病予防のための知識、技術を身につける	1. 健康に影響する生活要因(食事・運動・休養など)を理解している 2. 食生活による疾病への影響を理解している 3. 健康を阻害するリスクが理解でき、予防策を提案できる	30 35 35			○						◎	
仏教と社会福祉	仏教と社会福祉の関係を考える場合、社会福祉の側面からは、その価値基盤と仏教信仰の調和的關係構築が問題になる。こういった仏教と社会福祉の協働について学ぶ	1. 仏教社会福祉についての基礎的知識を身につける 2. 仏教的価値と社会福祉の価値が協働する場面について学ぶ 3. 仏教社会福祉実践の実際について学ぶ	30 40 30		◎					◎			
心理学概論	心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きについて理解する	1. 心理学の基本的な考え方や方法論について、その成り立ちや背景を学ぶ 2. 知覚、学習(条件付け)における心の基本的なメカニズムを学び、日常場面の心理学的関心を広げる 3. 記憶や動機付け等の基本的な仕組みについて学び、認知や目標達成における心の働きについて理解する	30 40 30		○								
食生活と健康	食品中の様々な栄養成分について理解し、健康な食生活に役立てる	1. 健康に必要な栄養成分を理解している 2. 食品の栄養成分について理解している 3. 健康を維持するための食品の適切な摂取法を理解し、実践できる	30 30 40			◎						○	
公衆衛生学	私たちの健康に関わる衛生問題や行政の現状について学ぶ	1. 我が国における公衆衛生の現状を理解している 2. 我が国における保健行政を理解している 3. 環境と健康の関わりについて理解している	40 30 30		◎							◎	
情報社会の理解	社会の情報化が及ぼす影響と課題、現代の情報社会を生き抜く上で必要となる情報倫理や情報セキュリティの重要性についての基礎を身につける	1. 情報基礎リテラシーについてその必要性及び概要を理解できる 2. 情報倫理・情報セキュリティについてその必要性及び概要を理解できる 3. 情報社会で発生し得る様々な問題に対して、実際の状況に即して的確な判断・決定をおこなうことができる	30 50 20					◎				○	
情報技術の理解	コンピュータ(情報処理)およびコンピュータネットワーク(情報通信)全般の基礎知識を身につける	1. 情報処理技術(コンピュータ)全般に関して、主にハードウェア、ソフトウェアの概念や動作の仕組みの基本について理解できる 2. 情報通信技術(ネットワーク)全般に関して、主にコンピュータネットワーク、インターネットの概念や動作の仕組みの基本について理解できる 3. 情報社会での様々な問題解決の基本として必要となる情報通信技術の現状や将来について幅広く理解することができる	40 30 30					◎				○	
社会と統計	国勢調査、学術調査、世論調査などの様々な実際の調査データを用いて、社会調査の基本的事項と意義について学ぶ。また、社会調査の歴史や実際に調査を行う際に注意すべき点についても学び、社会と統計との関わりについて理解を深める	1. 社会調査の計画・実施方法を理解する 2. 社会調査の調査票を作成できるようになる 3. 社会調査データの集計や簡単な統計分析ができる	30 30 40					◎				○	
専門職の連携(基礎)	健康科学部の学科・専攻において養成されるさまざまな専門職の専門性に触れるとともに、専門職の連携を通して現代の保健・医療・福祉現場のあり方を考える	1. 健康科学部において養成される専門職について理解している 2. チーム医療について概要を理解している 3. 地域包括ケアシステムについて概要を理解している	40 30 30		◎							◎	
社会福祉の原理と政策Ⅰ	福祉制度の意義・理念、福祉の原理をめぐる理論・哲学をふまえて、現代の社会問題の特性について理解できる	1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を説明できる。 2. 社会福祉の歴史的展開の過程と欧米の比較によって特性を説明できる。 3. 社会構造の関わりから現代の社会問題について説明できる。	40 40 20		◎							◎	



学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到 達 目 標	配 分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号							
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
青年心理学	青年期の発達と心理及び青年期特有の問題を理解する	1. 青年心理学に関する主要な理論を理解できる	40						○		◎
		2. 青年期の身体的変化、知的発達、自我発達、情緒、対人関係について理解できる	30		◎		○				
		3. 現代における青年期特有の問題について理解し、自己理解を深める	30						○	◎	
子どもと人間関係	領域「人間関係」の内容及び乳幼児期の子どもの人間関係について理解し、子どもに対する援助や環境構成について考える	1. 領域「人間関係」の基本的内容を理解する	40	○	◎						
		2. 乳幼児期の人との関わりでの発達過程を理解し、ふさわしい援助や環境構成について考えることができる	30		◎				○		
		3. 実技を通して、子どもの人間関係を育む力を養う	30								◎
学習・言語心理学	学習心理学及び言語心理学に関する基本的な知識を習得する。	1. 人の行動が変化する過程を理解する	30		◎		○				
		2. 学習心理学に関する基礎概念と理論を理解する	30		○			◎			
		3. 言語の習得における機序を理解する	40							○	
産業・組織心理学	職場における問題に対して必要な心理に関する支援や、組織における人の行動について学ぶ	1. 職場における問題(キャリア形成に関することを含む)に対して必要な心理に関する支援について理解する	40		◎						○
		2. 組織における人の行動について理解する	40		◎			○			
		3. 職場におけるリーダーシップなどの人間関係について理解する	20		○						
環境心理学	人と環境の相互作用について理解する	1. 嫌悪環境における人に心や行動の変化とその対応について理解する	40		○						
		2. 国際化の波が押し寄せる中、異文化適応や地球市民といった国際社会での対応について理解する	40		○						
		3. 地球温暖化などの時事問題に触れ、人間の未来への正と負の遺産について考察し、その対策を理解する	20		○						
子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育てが抱える課題や子どもの精神保健とその課題についても理解する。	1. 生涯発達に関する基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する	30		◎						
		2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する	40	○	◎						
		3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解する。	30		○						○
生命科学の基礎	生命科学の基礎知識を身につける	1. 人体・食品成分としての元素について理解している	30			◎		○			
		2. 人体の仕組み(主に消化管)の基礎を理解している	35			◎		○			
		3. 数的処理に必要な基本的な数学知識を身につけている	35			○		◎			
食品学Ⅰ	食品中の様々な構成成分について理解する	1. 食品の一般成分について種類、構造、性質を理解している	50			◎		○			
		2. 食品の嗜好成分について種類、構造、性質を理解している	30			◎		○			
		3. 食品の物性、食品成分の変化と相互作用について理解している	20			◎		○			
食品学Ⅱ	食品(原材料、加工品)の利用特性について理解する	1. 植物性食品、動物性食品の特性について理解している	40			◎		○			
		2. 発酵食品、油脂、調味料、嗜好飲料の特性について理解している	40			◎		○			
		3. 保健機能食品が健康に与える影響について理解している	20			◎		○			
食品衛生学	食の安全について理解する	1. 食品・食事の安全・衛生管理について理解している	30			◎		○			
		2. 食品に関連する法律や制度について理解している	35			◎		○			
		3. 病原性微生物・化学物質による汚染と防止について理解している	35			◎		○			

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外 の学修活動の総 和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
食マーケティング論	食品の消費と流通について理解する	1. 食生活の変遷について理解している	30			○		◎				
		2. フードマーケティングと食品流通について理解している	35			○		◎				
		3. 食品市場と食品流通、食品消費について理解している	35			○		◎				
基礎栄養学Ⅰ	栄養学の全体像を把握しつつ、その本質や根拠をなす考え方を理解する	1. 栄養の概念と摂食の調節機構について理解している	20			◎		○				
		2. 消化・吸収の機構と栄養素の体内動態について理解している	40			◎		○				
		3. 糖質、脂質、タンパク質の栄養機能について理解している	40			◎		○				
基礎栄養学Ⅱ	栄養と健康の関わりを理解するとともに、現代社会で大きな問題となっている「肥満」についての理解を深める	1. ビタミン、無機質、水・電解質の働きについて理解している	40			◎		○				
		2. エネルギー代謝について理解している	40			◎		○				
		3. 遺伝子発現と栄養の関わりについて理解している	20			◎		○				
応用栄養学	母性、新生児・幼児期、成長期、高齢期の身体的特性、スポーツや環境変化における生理的適応を理解し、これらの栄養ケアを習得する。	1. 栄養マネジメントの概要を理解する	30			○		◎				
		2. 各ライフステージにおける栄養状態の評価や判定法、栄養ケアを理解する	40			◎		○				
		3. 成長や加齢、スポーツ時や環境変化に伴う栄養ケアを習得する	30			◎		○				○
公衆栄養学	個人または集団の健康維持増進及び疾病予防を目的として、人間栄養学の実践に必要な理論と方法を学ぶ	1. 公衆栄養アセスメントの目的と地域社会の実態把握のための情報収集法を理解している	40			○		◎				
		2. 公衆栄養マネジメントの枠組み、公衆栄養プログラムの展開について理解している	40			○		◎				
		3. 我が国および諸外国の健康問題や栄養政策について理解している	20			○		◎				◎
子どもの食と栄養	子どもの特性を理解し、健康の維持・増進に貢献するための食事に必要な知識・技術を習得する	1. 栄養と食品に関する基礎知識を身につける	40			◎						
		2. 子どもの発育・発達に応じた食生活のあり方を理解する	30			◎						
		3. 食育の基本を学び食育の企画ができる	30					◎				○
専門演習Ⅰ	身体的健康・精神的健康・社会的健康に関わるテーマについて情報を収集・分析し、論理的に考え、課題を整理し、アプローチ手法を考えつつ検討を重ねる研究手法について理解を深める	1. 健康に関わる情報を収集し、分析することができる	30					◎				○
		2. 研究課題を整理し、アプローチする手法を考えることができる	40					◎				○
		3. 課題解決のための研究計画を立てることができる	30					◎				○
専門演習Ⅱ	女性ならではの視点から人々の健康に関するさまざまな課題解決を図る活動と運動し、地域社会の健康に向けた取り組みについて理解を深める	1. 大学の健康創造キャンパス構想や活動について理解している	35						○			◎
		2. 地域社会のヘルスケアに向けた取り組みを理解している	35	○								◎
		3. 研究課題を整理し、アプローチする手法を考えることができる	30					○				◎
卒業研究	主体的に取り組む研究活動を通して、科学的アプローチを理解し、研究者としての態度を身につける	1. 研究課題を見つけ、研究目的を立てることができる	30					◎				○
		2. 研究計画を立て、それを実行する事ができる	40					◎				○
		3. 研究結果を評価・考察し、まとめて発表することができる	30				○	◎				
女性と現代社会	女性を取り巻く社会の現状を理解し、キャリア形成に必要なスキルを身につける	1. 女性の現状をデータに基づき理解する	40					◎				○
		2. 女性を取り巻く法律を理解する	30	○								◎
		3. 男女共同参画の理念を理解し活用することができる	30						○			◎
女性とビジネス	自己理解、産業/企業理解、社会理解を深め、キャリアを描く	1. 女性が活躍できるビジネス分野を理解する	20	○								◎
		2. ライフスタイルとビジネスとの関わりを理解し自分の適性を考える	40						○			◎
		3. 働くうえで必要な力を理解し、経験に基づくアピール文にまとめることができる	40					○				◎
女性と経済	女性が自らの生涯設計をたてていくために必要となる経済および金融に関する知識を学ぶ	1. 収支管理の必要性を理解し、かつ、ライフプランの実現のために不可欠な資金計画の基本を理解している。	40					◎				○
		2. 基礎的な金融知識を持ち、金融商品を適切に利用選択できる	20					◎				○
		3. Excelを用いて、「家計のバランスシート」、「家計のキャッシュフロー表」を作成できる。また、金利計算ができる。	40					◎				○
女性のアントレプレナーシップ	女性の視点で事業創造・実践に関する概念や関連知識を幅広く学び「企業家精神」を養う	1. 経営資源・投資対効果といった事業創造や実践に必要な関連知識を理解できる	40								○	◎
		2. 新たなビジネスアイデアの発想に繋げるための視点や必要な知識を理解できる	40								○	◎
		3. 企業家として求められる意識や精神がどういったものであるかを理解できる	20								○	◎
労働と法規	労働法の体系を理解し、労働者に保障されている権利を正しく知るとともに、複雑な労働問題について考える	1.労働法の基礎的知識を網羅的に学び、労働法の制度のしくみを理解する	40	◎	○							
		2.労働基準法について、概要を理解している	30	◎	○							
		3.労働安全衛生法について、概要を理解している	30	◎	○							

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の 学修活動の総和)全体を100とした ときの配分	ディプロマポリシーの項目番号								
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
労働社会学	日本の雇用システムと、非正規労働力率の高まり、女性の職場進出、長期安定雇用の減少といった現在の様々な課題について考える	1. 日本の雇用システムと福祉や社会政策との関係について理解している	40	◎								
		2. 女性、非正規労働者、高齢者など、多様な働き方の現状を理解している	40	◎				○				
		3. グローバル化の中で、今後の労働のあり方を考えることができる	20							◎	○	
人体の構造と生理 I	人体を構成する細胞、組織、器官や臓器の解剖学・生理学を学ぶ	1. 人体を構成する細胞、組織、器官の構造について理解する	20			◎		○				
		2. 骨、筋、血液・リンパ系の構造と機能について理解する	40			◎		○				
		3. 循環器、内分泌の構造と機能について理解する	40			◎		○				
人体の構造と生理 II	人体を構成する器官や臓器の解剖学、生理学および運動力学を学ぶ	1. 消化器、呼吸器の構造と機能について理解する	35			◎		○				
		2. 泌尿器、生殖器の構造と機能について理解する	35			◎		○				
		3. 神経、感覚器の構造と機能について理解する	30			◎		○				
生活習慣病論	生活習慣病の内容と身体活動や運動による予防の重要性について理解する	1. 生活習慣病(NCD)の定義や各病態について理解する	60			◎						○
		2. 生活習慣病予防における身体活動や運動の重要性を理解する	30			◎						○
		3. 特定保健指導の制度と運動指導者の関わりについて理解する	10			◎						○
生涯スポーツ入門	豊かなスポーツライフを実現するための知識と実践する力を身に付ける。	1. 生涯スポーツの理論を学び、自身の生活について省察する	40			○						◎
		2. 様々なスポーツの価値を理解し、自身のスポーツへの関わり方を検討する	30									◎
		3. スポーツ観戦やスポーツボランティアの取り組みについて知る	30	○								◎
生涯スポーツ実習	生涯スポーツの有用性を理解し実践する	1. 生涯スポーツの概念について理解する	30				◎					○
		2. 生涯におけるスポーツへの関わり方を理解している	30				◎					○
		3. ニューススポーツが実践できる	40				◎		○			
スポーツマネジメント論	スポーツが関わっているビジネスについて学ぶ	1. スポーツマネジメントの基礎的概念について理解する	40				◎					○
		2. マネジメントの代表的な理論について理解する	30							○		◎
		3. 実際のスポーツ場面におけるマネジメントについて理解する	30				◎					○
社会調査法	社会調査が何のために何故行われるか、その特徴は何か、どのような方法があるのかなどを学び、社会調査についての基本を理解する。その上で、具体的な調査の方法を学び、社会調査を実施する上で最低限必要な一通りの知識と技術を修得する	1. 様々な統計データを読み解くリテラシーを修得する	30					◎				○
		2. 社会調査による情報収集の基本的知識を修得する	30					◎				○
		3. 社会調査によって収集された情報の分析に関する基本的知識を修得する	40					◎				○
社会調査実習 I	グループ実習を通じて初歩的な調査技術を習得することを目的とする。授業全体の調査テーマを設定し、グループに分かれて、各グループの調査テーマを設定する。グループ内で調査目的・仮説を明確化する。グループごとに調査票を作成し、調査対象を決定する。	1. 社会調査の基本的知識を習得できる	40					◎				○
		2. 社会調査を企画できる	30					○				◎
		3. 調査票を作成できる	30					○				◎
社会調査実習 II	社会調査実習 I で企画した調査を、グループ単位で実施し、調査して得られたデータの分析を行い、分析結果に基づいて報告書を作成する。グループごとに発表し、討論の後、各グループの分析結果に基づいて、調査全体としての結論を導く	1. 社会調査の基本的技術を習得できる	40					○				◎
		2. 社会調査を実施できる	30					○				◎
		3. 調査データを分析できる	30					○				◎
データ解析入門	統計ソフトSPSSによる基本的な社会科学的データの分析	1. 記述統計量の算出やグラフ作成を行い、分析結果を簡潔にレポートすることができる	20					○	◎			
		2. 推測統計の基本的な考え方を説明することができる	40					○	◎			
		3. t検定、相関分析、カイニ乗検定を行い、分析結果を簡潔にレポートすることができる	40					○	◎			
データ解析応用	統計ソフトSPSSを用いて多変量解析の基礎を学ぶ	1. サンプルデータに対して因子分析を適切に行うことができる	40					○	◎			
		2. サンプルデータに対して重回帰分析を適切に行うことができる	30					○	◎			
		3. サンプルデータに対してクラスター分析を適切に行うことができる	30					○	◎			
コンピュータ活用C	統計を理解し、使いこなすために必要な「統計リテラシー」の習得	1. 記述統計に関する基礎知識を身につけ、適切にデータを扱うことができる	60					○	◎			
		2. Excelを用いて、データを数値やグラフで適切に要約できる	30					○	◎			
		3. インターネットから公的統計データ入手し、適切に活用することができる	10					○	◎			
教育原理	教育の理論と実践の関係を把握する	1. 教育の社会的意義と目的を理解する	40						○			◎
		2. 教育の思想と歴史を理解する	30						○	◎		
		3. 初等教育制度・中等教育制度・高等教育制度の社会的機能を理解する	30				○					◎

